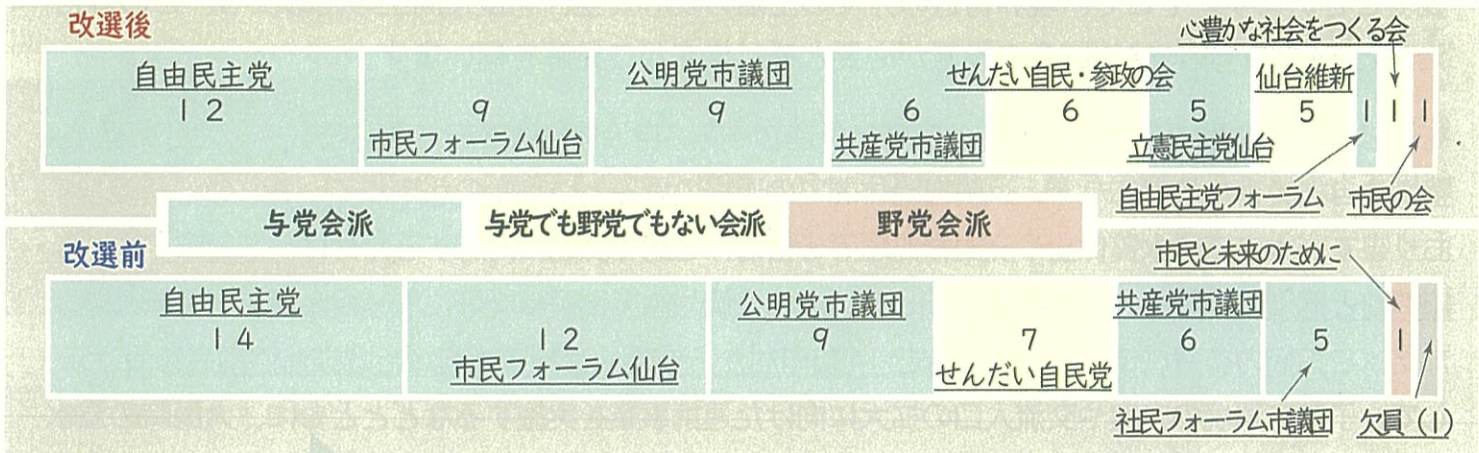


9月12日、仙台市議会第3回定例会が開会されました。改選後、初めて議会が開会され、子育て支援の充実に向けた「仙台子ども財団」の設立経費などを盛り込んだ補正予算案等、29の議案が提出されております。改選に伴う仙台市議会の会派構成に変更が生じ、私は「せんだい自民・参政の会」の一員として活動します。この仙台市議会の第3回定例会は10月13日まで開かれます。



「定例会」って何？ 定例会とは、定期的に招集される議会の会議のことです。地方自治法により、この定例会は、毎年、条例で定める回数につき招集しなければならないとされております。仙台市は「仙台市議会定例会の回数に関する条例」が制定されており、この条例により定例会の回数は4回と定められております。今年最後の第4回定例会は12月に開会される予定です。

仙台市議会（定数55）の会派構成



「会派」って何？ 会派とは、議員が同じ目的のために一緒に活動していく「仲間」のようなものです。仙台市議会の場合、3人以上の会派が「交渉会派」とされており、「交渉会派」は、定例会毎に上程された議案や市政の重要課題に対し「代表質疑」ができるようになり、議会を運営、進行していくうえでも交渉会派間で協議、調整がされております。議員一人一人にも市政に関する質問を行う権利があります。しかし、質問時間は会派毎に所属の議員数によって振り分けられるため、会派間内の時間内での調整によっては、長めに質問が出来ることもあります。一方で、会派に所属していると議決の際などは会派の意見を重視することが多いため、自分の意見を抑えることにもなってしまう場合もございます。



「一般質問」って何？ 一般質問とは、年4回の定例会の際、議員が議案に関係なく、市政の諸課題や将来への展望や自身の考えに関し市に質問や提案を行うもの。質問する議員は、事前に質問事項の通告を行い、持ち時間内でその通告の内容に沿って一般質問を行います。

第3回定例会 一般質問【9月22日】

- PICK UP • クーリングシエルター等の熱中症対策や注意喚起
- PICK UP • 水に親しめる公園整備を求める
- PICK UP • 田子排水機場の稼働不安に改善を求める
- PICK UP • 栄地区における冠水対策
- PICK UP • 多賀城市、利府町との広域行政連絡協議会
- 災害時要援護者情報登録制度の改善
- 学校建設に対する地域要望の反映

議会の動画はこちらから！



「広域連携協議会」って何？ 広域行政に関する共通課題について連絡調整を行い円滑な推進を図ることを目的として設置されております。現在本市は、名取市、富谷市、川崎町の2市1町とのそれぞれの間で共通課題についての連絡調整を行い、県や国に対し課題解決のための協力を促しております。



名取市（貞山運河）



富谷市（富谷市役所）



川崎町（みちのく杜の湖畔公園）

（質問）隣接する自治体の中でも、交流人口が多い利府町や多賀城市との広域行政連絡協議会の設置がございません。利府町との間では、多くの利府町民、本市市民が利府街道の渋滞に苦労しているし、多賀城市との関係では、冠水被害、農業用水路の管理、津波避難についても連携が必要でございます。そこで、境界付近の方々の生活の安心安全、利便性向上のためにも、この両自治体との広域行政連絡協議会の設置が必要と感ずますがご見解を伺います。

（まちづくり政策局）生活圏の広域化が進む一方、自治体財政が厳しさを増す中、生活環境の整備や自然災害への対応など、近隣自治体間での連携の重みというものが増しているものと認識しております。本市では水質保全や廃棄物処理等の自治体を跨ぐ課題に対応するために、名取市・富谷市・川崎町と個別に協議会を設置いたしまして、道路整備や震災復興事業等に取り組んでまいりました。また、ご指摘の多賀城市、利府町を含む14市町村から成る仙台都市圏広域行政推進協議会を設けまして、子育て環境の充実や交流人口の拡大に向けた連携事業を実施するなどとともに、大雨時の溢水対策や、河川の整備等について、国や県に要望を行うなどの活動も行っている。今後とも、こうした枠組みを活用しながら、近隣自治体との緊密な連携を図り、圏域全体が持続的に成長し、住民の皆様方が安全安心な生活を送ることができるよう、取り組んでまいりたいと存じます。

Look 多賀城市と連携し栄地区の冠水対策を求める

（質問）多賀城市からの雨水が流入し宮城野区栄地区は冠水で苦労しており冠水対策についても、多賀城市との連携が必要です。この件は、岩切駅周辺にふった雨も、多賀城市を經由して再び仙台市内に流入している複雑な問題。この地区の冠水被害の状況と行政間における課題認識について伺います。



J R 中野栄駅北側

（建設局）当該地区での直近の被害は、令和元年東日本台風時に、道路冠水に加え、床上浸水3件、床下浸水1件が確認されております。多賀城市の下水道計画では、当該地区北側の多賀城市域の雨水は、岩切駅周辺に降った雨も含め、多賀城市内で砂押川へ放流されることとなっております。しかしながら現状は、市街地の開発が進まない状況等から、雨水排水施設の整備には至っておらず、大雨時には、従来の農業排水の流れを通じ、仙台市に流入している。このため、本年7月に多賀城市と情報共有を図ったところであり、引き続き、課題解決に向けた協議を進めてまいります。

本年4月に高砂中央公園の一部が開放され、仙台港エリアの中でもひと際賑わいが溢れているように大変評判の良い公園となっております。しかし、今年の猛暑の中、一番の人気遊具、「ふわふわドーム」が表面温度の上昇により利用を制限する日が続いておりましたし、この公園以外においても、滑り台や鉄棒、ブランコなどについてもやけどの危険性、子ども達自身の熱中症の心配がございました。



今夏の高砂中央公園「ふわふわドーム」表面温度上昇により利用が制限されました。

(質問) 近年の猛暑により、公園にも新しい対策が求められております。対策としてドライ型ミストを設置している公園が増えております。霧状の水滴の気化熱を利用した外気冷却システムで、平均で2℃～3℃程度の低減効果があり、熱中症対策に有効とされています。そこで、高砂中央公園のような市内の大型公園においても、猛暑時の熱中症対策としてドライ型ミストの設置導入を提案致しますが、必要性、方向性を伺います。



猛暑時の遊具はやけどの心配があります。

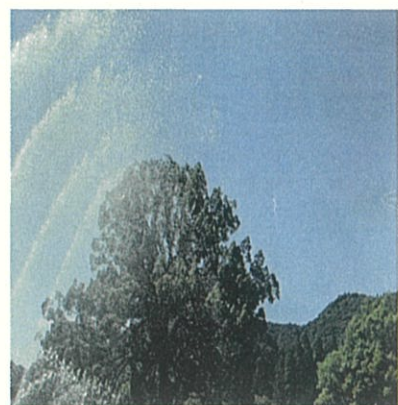


ドライ型ミストは、水が素早く蒸発し、肌や服は濡れません。

(建設局) 大型公園における熱中症対策としては、管理棟内に扇風機、や冷風機を備えた休憩スペースの設置や、屋外の簡易テントによる日陰づくりなどの取組みを実施しているところでございます。ご提案のドライ型ミストにつきましては、先行自治体の事例を調査しながら、暑熱対策や熱中症対策としての効果も含め、検討してまいります。

Look 水に親しめる公園の整備を求める

(質問) 子どもの気持ちを代弁すれば、思いっきり水に触れあえる公園を望むという声が大いに違いありません。例えば、整備中の高砂中央公園は、管理棟に、おむつの交換台もあれば、シャワー利用も可能です。このような施設が整っている同様の公園については、水と関わる環境整備を期待しますが見解を伺います。



(建設局) 本市では一部の公園において噴水や水路等の親水施設を整備しており、夏場は多くの子ども達で賑わっているところでございます。新たな親水施設の整備は、初期費用だけではなく、整備後の維持管理費も多額になるという費用面での課題があるものと認識しており、指定管理者と連携し、既存の設備の中で、水遊びができる工夫をしてまいりたいと考えております。

Look クーリングシェルター等の熱中症対策について

「クーリングシェルター」って何？ 冷房施設が整っている施設を開放し、熱中症対策に役立てる取組みで、各地で進められています。環境省によりますと、全国で100以上の自治体が取組みを進め、図書館などの公共施設のほか、コンビニエンスストアや銭湯、薬局などの民間施設を避暑施設として開放しております。



(質問) だれでも熱中症にかかる危険が増しております。現在、「熱中症警戒アラート」が全国で運用されている他、今後各自治体は冷房施設を備えた避暑施設「クーリングシェルター」の導入を進めることとなります。政府は、来年から本格的に運用開始を目指しておりますが、既に全国で100以上の自治体で取組みが進められております。今後のクーリングシェルターの取組みの方向性を伺います。

(健康福祉局) 気候変動の影響により、国内の熱中症死亡者数の増加傾向が続いていることを踏まえ、今般、気候変動適応法が改正され、令和6年春頃に全面施行される予定となっております。この改正によって、現在の熱中症警戒アラートより一段上の「熱中症特別警戒情報」が新設され、その発表期間中に一般に開放する指定暑熱避難施設、いわゆる「クーリングシェルター」を指定できることとされました。本市におきましても、今後、国から示される指定の要件を踏まえつつ、関係局とも連携しながら、指定に向けた検討を進めてまいります。

Look 特に熱中症弱者に対する注意喚起の強化を

(質問) 子どもや高齢者、持病のある人は体温調節機能が弱い「熱中症弱者」として、特に注意喚起を強化しなければなりません。

(健康福祉局) 熱中症を予防するためには、適度な水分補給や十分な睡眠などが重要であり、本市におきましては、熱中症の症状や予防行動に関する情報を本市ホームページに掲載するなど、啓発等を行っております。今後とも、子どもから高齢者まで各世代ごとに生活状況に合わせた適切な予防行動がとれるよう、関係部局で連携し、注意喚起の強化など、必要な対応を図ってまいります。



仙台市ではこの夏猛暑日日数が過去最高を更新しております。

Look 田子排水機場の稼働不安に改善を求める

(質問) 9月6日の大雨において、排水機場の吐水槽ゲートに対し、流れてくる水の水圧が作用したことで、完全に閉まるまでに1時間を要したという事態が生じております。排水機場は、運転頻度は低いものの、運転が必要となった際には確実に始動し排水運転を行わなければならないので、高い信頼性が要求されます。今回のこの排水機場の状況と今後の対策をお示してください。

(経済局) ゲートの製造・施工を行った業者が実施した調査によりますと、6日の大雨の際、上昇した水位により大きな水圧がかかり、ゲート本体に扉の部品が引っかかったことが、閉鎖までに時間を要した主な原因と考えられます。すでに改善措置を実施いたしましたが、浸水被害防止に万全を期すため、当面の間は、水位が上昇し、大きな水圧がかかる前の段階で当該ゲートを閉鎖することとしております。本市といたしましては、施工業者に対し、本件の詳細な原因調査や、ゲートの正常な稼働の検証など、責任ある対応を求めるとともに、改善状況等については、周辺住民の皆様適切に情報提供を行うなど、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。



(田子排水機場)

令和元年東日本台風後、浸水対策やパドランプの設置を行ったが、今回はゲートに課題があった。